

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570201170
法人名	有限会社 未来企画
事業所名	グループホーム オルゴール
所在地	宮城県都城市吉尾町111-1 (電話) 0986-38-0552
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 1 月 20 日

【情報提供票より】(平成20年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくしまクリニック 中央歯科 田中歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>都城市郊外に位置し国道から入った清閑な場所にあり、周囲は民家が少なく商業施設、福祉系の専門学校などが点在する。敷地内にはゲートポール可能な芝生のスペースを備え広々とした敷地である。母体が建設業ということでウッドデッキなどの設置もあり木目を基調とした生活空間の心地よさと安全面に工夫がなされていた。また会長の思いから「真心慶福」の理念をもとに管理者を中心に全職員が団結して日々のケアにあたっている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>施錠についてはエスケープも発生し改善までは至っていない。食事に関しては介助の方も増え同じ時間に食事が難しい状況になっているが検食として同じ食事を取るようには配慮されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義とねらいについて管理者・職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。今回の自己評価では全ての項目で取り組みの事実のみで、取り組みを期待したい項目への記載はなかったが一步前を見据え日々のケアに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政職、家族の代表、公民館長、地域住民委員などの参加のもとホームの取り組みや利用者の状態などの報告や協議がなされている。行政職の方が参加してもらうことにより行政への要望など連携がスムーズに図れるようになっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営会議での家族代表の意見や家族来訪時に直接意見や要望を聞いており気軽に意見や苦情を出せるような環境づくりができています。また、来訪の少ない家族に対しても電話などで生活状況など定期的に行うようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の公民館行事に職員がボランティアで参加協力したり、ホームの運動会に近くの福祉系専門学校の学生の協力をいただいたり、運営推進会議をもとに地域と交流を持ち行事等にも積極的に参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を考え、母体組織の理念である「真心慶福」理念をもとにホーム独自の理念をつくりあげ、更に各ユニットごとに具体化した理念をつくり1年ごとに理念の検討を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎日唱和し、定期会議(スタッフ会議)等で理念について話合いの機会を持ち理解・共有につとめている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館行事に職員がボランティアの参加協力をしたり、ホームの行事に近くの福祉専門学校の学生の協力を得たり、地域との交流も積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員で話合い全員で自己評価表を作成している。自己評価では取り組みを期待したい点はないが一步前をモットーに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職、家族会の代表、事業所職員などの参加のもと運営推進会議を開催し会議での意見を参考にケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への行政職の参加により市町村に対し意見交換が活発に行えるようになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の健康状況や暮らしぶりについて情報提供を行っている。また、定期的に便りを発行したり来訪できない家族に対しては電話にて報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理体制は明確で、運営推進会議への家族の代表の参加をいただき要望や苦情など意見をいただいている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は発生していないが、あらかじめ退職予定のある場合は担当職員のすみかえを工夫して、ダメージがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修受講が可能であり外部の研修に参加した場合は復命し職員に伝達している。また、個々においても自由に研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部からの訪問はないが総括責任者が他の同業者を訪問し情報を交換している。得られた情報は各職員へ伝達しサービス向上に努めている。		現場の職員が、他のホームと行き来したりして、職員同士の情報交換や交流が図れる機会づくりをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に来訪していただき本人、家族が納得して利用できるようにしている。また、来訪できない方には利用前に職員が訪問し徐々に馴染めるように取組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのかわりの中で、生活の知恵やことわざなど教えてもらう場面があり共に支えあう関係作りを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいかどのような暮らしを望んでいるか日々の生活を通じ本人本位に希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で話し合い利用者の立場に立った介護計画が作成されている。また、家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回定期的に行われ月1回は利用者の経過についてモニタリングされているが見直しや計画の再検討までは至っていない。	○	月1回は計画の見直しや確認を行い、計画の遂行状況・効果など検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ通院や外出などの支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。また、協力医療機関も含め良好な関係が築かれている。歯科も含め往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のケアとしては、医療行為等が発生した場合はすみやかに医療機関で対応できるよう配慮している。「看取り」については、運営推進会議を通して必要性やあり方について検討することになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応時はプライバシーを損ねないように十分配慮されており個人情報についても十分な配慮のもとに管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムにあわせ希望に沿って支援を行っている。		夕食後の日課についてもその人らしい暮らしになるよう支援してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しを一緒に行ったりホームの畑に野菜を取りに行ったりしている。また、検食を兼ね職員と一緒に同じ食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午前中より入浴時間を設け入浴している。ユニットごとに曜日を変えて行っているので希望に合わせて入浴の支援ができるよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる限り利用者の能力や特性を活かし支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しはその都度利用者と一緒に外出したり、最低月2回はドライブなど外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、利用者のエスケープがありそれ以降は家族の希望もあり日中施錠している。	○	できる限り本人の生活パターンを把握し鍵を掛けない工夫をお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルがあり年に2回は防災訓練を行っている。また、連絡網を使った訓練なども行われている。		地域住民の協力を得られるように働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当の職員がおり一人ひとりの嗜好や季節のもの等栄養バランスに配慮した献立作りがなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共有空間は畳のスペースなどゆったりと保たれており、不快な音や光もなく洗剤なども適切に管理され安心して生活できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやたんす、装飾など本人の持ち物や本人に関連した物が持ち込まれておりその人らしい環境づくりがなされている。		